



南葵音楽文庫ミニレクチャー

フランスとスペインのはざままで

～アンリ・コレ《カスティーリャの歌》～

近藤秀樹

2020年2月22日(土) 11:00

南葵音楽文庫閲覧室(和歌山県立図書館内)

南葵音楽文庫
和歌山県立図書館内
和歌山市西高松 1-7-38
tel.073-436-9500



1998年にフランスで発行された、アンリ・コレ
の記念切手。

<https://i.pinimg.com/originals/3a/d5/be/3ad5be7c13d1f3772a991f214d6ffa3c.jpg>

はじめに: アンリ・コレ Henri Collet (1885-1951)

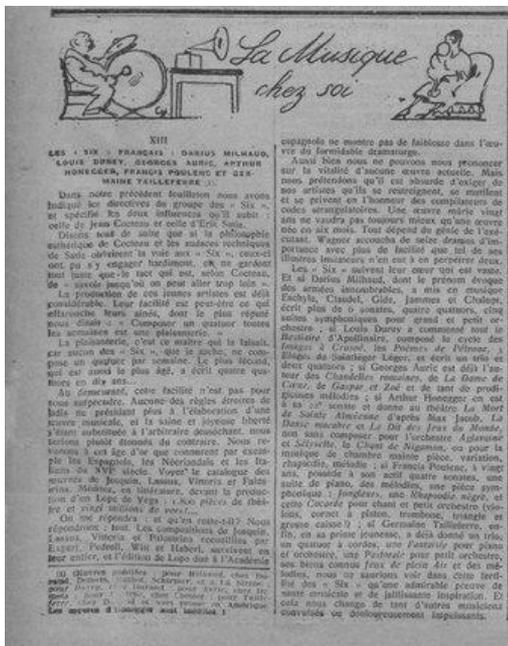


- フランスの作曲家、音楽学者。ピアニストとしても優れる。
- スペイン音楽の研究者。
『16世紀のスペイン音楽における神秘主義』(1913年)
『ビクトリア』(1914年)
『アルベニスとグラナドス』(1919年)
『20世紀におけるスペイン音楽の発展』(1929年)他。
- 音楽評論家としても活躍。『コメディア』『ル・メネストレル』『ルヴュ・ミュージカル』等に健筆を揮う。
- スナール室内楽シリーズの「付録論考」の執筆者の一人。

<https://www.durand-salabert-eschig.com/en-GB/Composers/C/Collet-Henri.aspx>

1. 音楽評論家としてのコレ: 6人組の名付け親

- 1920年1月に『コメディア』紙で、最近のフランスの若手作曲家たちについて二度にわたって論じる。
1月16日「リムスキーの著書とコクトーの著書、ロシア5人組、フランス6人組とサティ」
1月23日「フランス6人組: ミヨー、デュレー、オーリック、オネゲル、プーランク、タイユフェール」



アンリ・コレが『レ・メネストレル』誌 1929年1月23日号に書いた音楽コラム La musique chez soi (前半部分)。「フランス6人組: ミヨー、デュレー、オーリック、オネゲル、プーランク、タイユフェール」と題されている。この記事がきっかけで、「(フランス)六人組 Les Six」の名称が生まれた。

コクトーとフランス6人組。ピアノの前に坐っているのがジャン・コクトー。左からミヨー、オネゲル、タイユフェール、プーランク、デュレー。壁に掲げられているのは、この場に居ないオーリックの横顔をコクトーが描いたもの。



<https://www.classicalmpr.org/story/2005/05/28/how-les-six-became-the-most-recognizable-brand-in-french-music>

2. 作曲家としてのアンリ・コレ

- コレとスペイン
 - 少年時代からスペインに強い憧れをもつ。
 - スペインに留学。音楽と文学を学ぶ。
 - スペインの民俗音楽の研究家、オルメーダとペドレルに師事。
 - 彼等の影響で、自らもスペインの民謡を土台とした作曲を志す。

- 主な作品

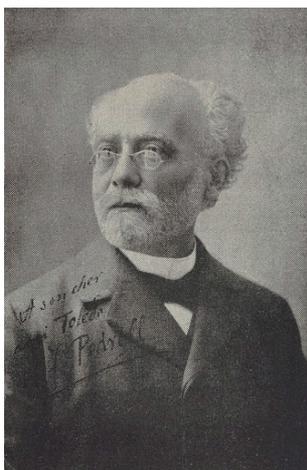
- ピアノのための交響詩《エル・エスコリアル》 *El escorial, Poème symphonique*, Op. 22 (1910)
- 《カスティージャ狂詩曲》 *Rapsodie Castillane* for viola and orchestra (1923)
- 《アルハンブラ交響曲》 *Symphonie de l'Alhambra* (1947)
- 《フラメンコ協奏曲》第1番 *Concerto flamenco* No. 1 for piano and orchestra (1946)
- 《フラメンコ協奏曲》第2番 *Concerto flamenco* No. 2 for violin and orchestra (1947)



フェデリコ・オルメーダ (左) Federico Olmeda (1865-1909)

ブルゴスの大聖堂の楽長。スペインのカスティーリャ地方、特にブルゴスの民謡の研究を行った。これは 1907-09 年にオルメーダのもとで古楽とスペイン民謡を研究している。コレのパiano曲《カスティーリャの歌》第 1 集はオルメーダが収集した民謡に基づく。

https://es.wikipedia.org/wiki/Federico_Olmeda#/media/Archivo:Federico_Olmeda.jpg



フェリペ・ペドレル Felipe Pedrell (Felip Pedrell i Sabaté 1841-1922)

スペインの作曲家、音楽学者。スペイン国民楽派の先覚者。アルベニス、グラナドス、ファリャに大きな影響を与えた。

https://ca.wikipedia.org/wiki/Felip_Pedrell_i_Sabat%C3%A9#/media/Fitxer:Felipe_Pedrell_01.jpg

3. アンリ・コレと、スナール室内楽シリーズ (1): 音楽作品

スナール室内楽シリーズには、コレの作品がいくつか収められている。

1922 年第 1 期「歌とピアノ」編に収められた歌曲集《4 つの風景》以外は、すべてスペイン音楽と深いかわりのある作品である。

スナール室内楽シリーズにおける、アンリ・コレの作品

<i>Quatre paysages</i> op. 56 à 59, poème de Stéphane Austin	Chant et Piano. 2e année, no.1
<i>Chants de Castille</i> pour piano	Piano. 5e année, no.2
<i>Danses castillanes</i> pour piano, op. 75, nos. 1 à 4	Piano. 5e année, no.2
<i>Rhapsodie castillane</i> pour alto ou violon et orchestre (ou piano)	Violon. 5e année, no.1

1925 年第 2 期の「ピアノ音楽編」には、アンリ・コレの二つの作品が収録された。

《カスティーリャの歌》第 2 集と、《カスティーリャの踊り》である。

アンリ・コレ ピアノ曲集《カスティーリャの踊り》



カスティーリャの踊り 作品 75 no.1-4

1. ラ・タララ La Tarara
2. セギディーリャ Seguidilla
3. ハバネラ Habanera
4. ブルガレサ Burgalesa

◀コレ《カスティーリャの踊り》の楽譜の表紙。

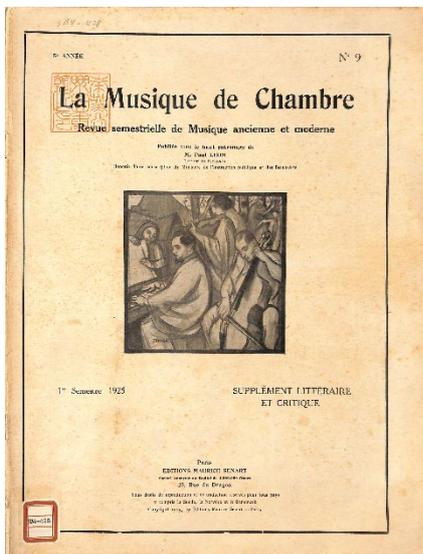
コレ《カスティーリャの踊り》第2曲〈セギディーリャ〉の冒頭部分。この曲集はホアキン・ニン (Joaquin Nin 1879-1949) に献呈された。ニンはキューバ出身の作曲家でピアニスト。《20のスペイン民謡》《イベリア舞曲》など、スペインの民俗音楽に基づく作品を書いた。ニンの《20のスペインの歌》(1923年)の歌詞のフランス語訳は、アンリ・コレによるものである。



4. アンリ・コレと、スナール室内楽シリーズ (2): 付録論考

スナール室内楽シリーズ・付録論考の構成

スナール室内楽シリーズには、毎号、「付録論考」Supplément littéraire et critique と題された冊子がついた。一種の音楽雑誌である。アンリ・コレはこの「付録論考」で、毎号、作品紹介のページを担当。その号に収録された作品とその作曲家の解説を書いている。



「付録論考」の主な内容

- 演奏会評: シーズン単位、新作中心。
音楽評論家ロベール・デザルノが担当。
- 作品紹介: その号に含まれる作品と作曲家について解説。
アンリ・コレが担当。
- 論考「我らが作曲家たち」Nos musiciens: 特定の作曲家を取り上げた論考。担当者は毎号交替。
ex. ケクラン論: D. カルヴォコレッシが担当。
オネゲル論: ロラン・マニユエルが担当。

▲ スナール室内楽シリーズ・1925年第1期「付録論考」の表紙

アンリ・コレ、自作を語る

室内楽シリーズ・1925年第2期の「付録論考」の作品紹介で、アンリ・コレは、同号に収録された自作《カスティージャの踊り》にも触れている。

《カスティージャの踊り》はこの文章の筆者の署名のある作品だが、この作品の狙いはただひとつ、「メセタ」* の郷土たちの叙情的なリズムの運動をとらえること、これである。作曲者がこの短い曲において目指したのは、自由なインスピレーションと、民謡のドキュメントを、どこからどこまでが民衆的なものなのかがわからなくなるようなやり方でひとつに溶け合わせることであった。これらの舞曲は管弦楽化され、他の新作とともに、一幅の「スペインの絵」として初演される予定である。これは1925年12月22日にシャンゼリゼ劇場で『ラ・リベルテ』紙の主宰により開催される、モロッコの兵士たち** のためのガラ・コンサートの一環であ

* Meseta イベリア半島の中央に位置する、広大な乾燥高原。

** 第3次リーフ戦争への仏軍参戦を指す。

自由なインスピレーション……コレ作曲家としての側面

民謡のドキュメント……コレ音楽学者としての側面

⇒ 音楽に対するコレの姿勢をよく示している。

○主要参考文献

Jean Gallois: *Henri Collet ou L'Espagne impérieuse*, Edition Papillon, 2001.

Henri Collet : *Cantos de España*, Claves, CD 50-9506, 1995.

Henri Collet : *Oeuvres pour piano*, Maguelone, MAG 111.198, 2014.